出エジプト記の結晶の学び　第 11 週 神の王国の描写

鳥瞰	神の王国は、神がみこころの大いなる喜びにしたがって、彼のご計画を成し遂げるための神聖な範囲です。出エジプト記第 18 章が提示しているのは、神の王国の描写、予表です。この描写はアマレク人との戦いの後に王国と王職が直ちに入って来て、キリストのからだとしての召会が建造されるということです。出エジプト記第 18 章 13 節から 26 節は、王国の権威と秩序を描写しています。神の住まいの建造のために、わたしたちは神の王国としての召会の中で王国の生活を生きる必要があります。神の王国は、人が入る神聖な領域で、その範囲は神聖な命、光、真理、恵み、牧養、栄光、復活、平安、喜び、一、愛、建造の範囲です。わたしたちは、神の王国としての召会の中で、王国の生活を生きるとき、「共に建造されて、霊の中にある神の住まいへと至るのです」。	
	真理要点	経験適用
1日	1. 福音と王国の関係はどのようなものですか？ 2. わたしたちはどのようにして出エジプト記第 18 章の絵を、今日のクリスチャンの中に適用しますか？	1. わたしたちは、福音の内在的な本質は王国であるということを見る必要があります。福音は王国のために宣べ伝えられます。王国は、神が彼のご計画を成し遂げるための神聖な範囲、神が彼の権威を行使して、彼が意図する事を達成することができる領域です。福音の目的は王国を持つことです。神の王国は福音の目標です。 2. わたしたちは自分の経験から、わたしたちの肉が打ち破られるとき、未信者たちがわたしたちに戻って来ることを知っています。すべての召会が積極的に福音を宣べ伝えるのは良いのです。しかしながら、もしわたしたちが肉の中に生きて、アマレクを打ち破ることに失敗しているなら、福音を宣べ伝えることで大いに労苦しても、多くの未信者が戻って来ることはないでしょう。わたしたちが生ける霊によって、働く十字架を通し、肉を殺して福音を宣べ伝えるとき、わたしたちがどこへ行っても、人々はわたしたちに戻って来るでしょう。
2日	1. 恵みの福音と王国の福音の違いについて説明して下さい。 2. 福音が王国のためというのはどういうことでしょうか？	1. 恵みの福音とは、神が喜んで惜しみなくわたしたちに恵みを賜わり、わたしたちはただ信じることによってこの恵みを受け、信者となります。王国の福音とは、神はそれを通して、わたしたちを天的権威の支配の下にもたらします。それによってわたしたちは神の王国、すなわち神の権威によって支配される者たちとなります。それはわたしたちが主の弟子、すなわち主の権威によって訓練され、支配され、弟子とされ、取り扱われる者となることです。 2. 福音のあらゆる面はすべて王国のためです。王国が真の福音であり、福音を宣べ伝える目的は、人々を王国の中へと入れるためです。福音が告げ知らされるのは、人々が救われ、資格づけられ、装備されて、王国の中へと入るためです。王国の福音は反逆的な罪人を召会の中へともたらします。召会の実際は王国です。
3日	1. 王国と召会の関係はとても密接だということを説明して下さい。 2. 王国が召会の実際であることを説明して下さい。	1. 福音は召会をもたらすのではなく、召会を生み出すのです。ですから、福音は神の王国をもたらし、福音はまた神の召会を生み出します。こういうわけで、福音は新約において王国の福音と呼ばれています。王国の福音が召会を生み出し、産出します。なぜなら、王国は命そのものであるからであり、召会は命の結果、産物であるからです。 2. 召会の中で、わたしたちは神聖な命の中で生き、行動し、活動する信者です。その結果、この神聖な命の表現があります。この神聖な命の表現が王国、すなわちこの命の実行であり、この神聖な命の実行は召会の中にあります。今やわたしたちは、王国が召会生活の実際であるのを見ることができます。神聖な命がある限り、そこに王国があります。
4日	1. 神聖な領域にいるために必要な資格について説明して下さい。 2. 神の支配は外側の事柄ではなく、命の事柄であることを解説して下さい。	1. 神の王国は神の統治です。それは人が入る神聖な領域であり、神聖な命が必要となる領域です。ただ神聖な命だけが神聖な事柄を認識することができます。ですから、人が神の王国を見て、その中へと入ることは、彼が神聖な命をもって再生されることを要求します。 2. 神の統治に対するわたしたちの通常の理解は、毎日「むち」があって、わたしたちを外側から規制するというものでしょう。実は、神の支配は外側の事柄ではなく、命の事柄です。もし猿が再生され、再び生まれて人となり、人の命を持つことができるなら、この命は自動的に猿を内側から規制して、人のように生きさせます。このようにして、猿は自動的に自然に人の王国の中へと入るでしょう。
5日	1. どのようにして神の中で生き、どのようにして霊的な経験を得ますか？ 2. どのように神の永遠の命が、わたしたちの中で輝くようになりますか？	1. わたしたちは神の中に生きたいなら、命の霊の法則の中に生きなければなりません。これは、わたしたちが霊の中に生きることを必要とします。なぜなら、命の霊の法則は霊の中にあるからです。これはまた、わたしたちが命の感覚の中に生きることを必要とします。わたしたちが命の感覚に従うなら、霊のことを思い、霊の中で生きます。わたしたちは霊のことを思うなら、命の霊の法則の中に生きます。わたしたちは命の霊の法則の中に生きるとき、神の中に生きます。その結果、わたしたちが生かし出すのは神ご自身です。 2. わたしたちは御言を受け入れることによって神から生まれ、神聖な命、永遠の命を得ており、この命は光となってわたしたちの内側で輝きます。キリストが、神聖な命として、わたしたちの内側で命の光として輝くとき、わたしたちは彼の照らしの下にあります。
6日	1. 「恵み」について解説して下さい。 2. キリストは良い牧者として、どのようにして神の命をもって神の子羊であるわたしたちを牧養いますか？	1. 恵みとは、肉体と成ることにおける三一の神が、源としての御父によって、要素としての御子によって、適用としてのその霊によって、信者たちに分与されることです。恵みとは、「神がすべてであり、神がすべてを行ない、神がすべてを与える」ことを意味します。わたしたちが持っているもので、受けなかったものがあるでしょうか？　わたしたちはすべてを受けました。わたしたちは恵みの上にさらに恵みを受けるのであり、この恵みは神ご自身です。 2. 今や主はわたしたちを、命において内側から牧養しておられます。わたしたちは内側で、彼をわたしたちの牧者、すなわち命の牧者、命にある牧者として持っています。わたしたちの牧者として、生けるキリストはわたしたちに命を与えるだけではありません。彼がわたしたちにとって命となります。主がわたしたちの内側で生きることが、実は彼の牧養です。
まとめ	わたしたちが福音を宣べ伝えるのは、人々が救われ、資格づけられ、装備されて、豊かに王国へと入るためです。福音はまた神の召会を生み出します。それは今日、召会の中で、わたしたちが神聖な命の現れ出をもつなら、それは王国です。王国は召会生活の実際です。この王国はまた一種の範囲で、命、光、真理、恵み、牧養、喜び、愛、建造…等です。これを実際化するために、わたしたちは小組の生活が召会生活の 80%を占め、他の 20%が集会の中にあることを見る必要があります。もし、わたしたちの観念が更新されるのであれば、わたしたちは自分を顧みるだけでなく、喜んで時間を取って、日常生活の中で聖徒たちとブレンディングされることによって、王国の生活の項目を実際化することが出来ます。	